

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標「命」と「心」を大切に、「一緒に」考え歩む学校

目指す子どもの姿 他者とつながり、「なりたい自分」に近づくために、前向きに学びを進める子ども

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市立ゆりのき台中学校
学校長 南波 克典
研究主体【研究推進委員会】

前年度		継続性	4月		2～3月		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		評価	学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員点検 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)
社会的自立に向けたキャリア教育の推進	○学校評価アンケート「キャリア教育」に対する肯定的回答の割合: 生徒78%、保護者69% ○生徒質問調査「将来の夢や目標を持っている」に対する肯定的回答の割合: 62% 各学年で取り組んでいる進路学習を関連づけ、積み重ね、卒業後の生活を含めたキャリアを考え見極めていく取り組みが不十分であると考えられる。3年間を見通した継続したキャリア学習を充実させるとともに、情報発信を丁寧にしていく。	B ⇒	自己理解を深め、主体的に進路選択する力を育てるキャリア教育の推進 (c ・ f ・ g)	①学校評価アンケート「キャリア教育」に対する肯定的回答の割合: 保護者の評価⇒75%以上 ②生徒質問調査「将来の夢や目標を持っている」に対する肯定的回答の割合⇒70%以上 ③生徒質問調査「自分には、良いところがあると思いますか」の問いに対して肯定的回答の割合⇒85%以上	・兵庫県版「キャリアパスポート」を積極的活用 ・自己理解を深める活動(進路選択の土台) ・1年生から3年間を見通した進路学習の充実 ・社会とのつながりを知る・体験(職場体験、社会理解、地域活動)		
ICT機器を適切に活用して生徒が主体的、協働的に学ぶ授業をデザインする。	○学校評価アンケート「学ぶ意欲を引き出し学力を身につけられるような授業が行われているか。」に対する肯定的回答の割合: 生徒79%、保護者77% 一方で学習に難しさや不安を感じている(20%)ので、授業内容の改善や個に応じた学習活動の展開、テストの工夫、評価の研究に努める。 ○若手教員を中心に多くの教員が授業を公開、教科の枠を超えて参観し、共に学びを深めることができた。	A ⇒	ICT機器を適切に活用して生徒が主体的、協働的に学ぶ授業をデザインする。 (a ・ b ・ c ・ d ・ e ・ g)	①学校評価アンケート「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われているか。」に対する肯定的回答の割合: 生徒、保護者共に⇒80%以上 ②質問調査で「1、2年生のときの学習の中で、タブレットなどのICT機器を活用することについて。」(6)友だちと考えを共有したり比べたりしやすくなる(7)友だちと協力しながら学習を進めることができる⇒80%以上	・授業の積極的公開、参観をし、指導力の向上を図る。 ・教員の情報活用能力向上を目指した研修を行う。個人でオンライン研修を積極的に活用する。全体研修を実施する。 ・学習アプリの活用や日々の学習方法等を生徒間で共有し、自主的な学びにつなげる。		
特別支援教育、生徒支援の観点に立った学習指導に努める。	○生徒質問調査「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか。」に対する肯定的回答の割合76% ○授業内容がわかるもの(板書、プリント等)をタブレット端末で配信した。 ○木曜日放課後、学習会を実施し自主的に学ぶ機会とした。	B ⇒	特別支援教育、生活支援の観点に立った学習指導に努める。 (a ・ c ・ f)	①質問調査で「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか。」の問いに対して、肯定的回答の割合⇒80%以上 ②質問調査で「1、2年生のときの学習の中で、タブレットなどのICT機器を活用することについて。」(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。」の問いに対して肯定的回答の割合⇒80%以上	・すべての生徒にわかりやすく、やさしい授業を目指す。 ・生徒の心に寄り添い一緒に考える時間を大切にする。定期的に学習会を実施し、じっくりと生徒たちと対話し教えることができる時間を確保する。 ・引き続き授業内容がわかるもの(板書、プリント等)をタブレット端末で配信する。(校内サポートルーム、欠席者を含むすべての生徒) ・個に応じた対応の具体を全職員が共通理解し、実践する。 ・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定をする。 ・朝学習では個に応じた学びができるよう、自主的な学びを支援する。		
「伝える力」を高める活動の充実	○生徒質問調査で「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに対して、肯定的回答の割合が68.2%。 「1、2年生のときの学習の中で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」の問いに対して肯定的回答の割合61% ○「伝える力」の向上を図る活動の在り方について具体的に進めることができていない。来年度の課題である。	C ⇒	「伝える力」を高める活動の充実 (a ・ b ・ g)	①生徒質問調査で「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに対して、肯定的回答の割合75%以上 ②生徒質問調査で「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに対して、肯定的回答の割合⇒70%以上	・「ここからだの連絡帳 デイケン」を活用する。 先生に相談したいと伝える機能があり、コミュニケーションが苦手な生徒でも安心してSOSを発信することが可能である。 ・「伝える力」の向上を図る活動の在り方について、研修会を持ち、それぞれの教科でテーマに沿った授業をデザインする。また、一部の教科については研究授業として公開する。		
育ちと学びをつなぐ教育の推進	○学校評価アンケート「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合: ⇒ 保護者87%、生徒84% ○小学6年生に出前授業を継続して実施している。	A ⇒	育ちと学びをつなぐ教育の推進	・「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合: 学校評価アンケート⇒ 保護者、生徒ともに85%以上 ・中学校区学校園所「連絡会」「研修会」を多く開催し、連携を深めることができている。今後も継続し、充実を図る。	・中学校区学校園所「連絡会」「研修会」を開催し連携を深める。 ・特に小中学校間では定期的な会だけでなく、日常から必要に応じて連携を深めていく。(授業公開・研修等)		
教職員としての実践的指導力の向上	○保護者に配布する評価の方針に関するプリントを、例年通りではなく、教科内で丁寧に見直し検討したものを作成、配付した。 ○評価に関する研修を年に3回実施した。 ①学習評価の基本的な考え方(4月) ②授業づくりと評価のコツ(8月) ③評価の技術(2月) 今後も継続して研修を重ね、生徒の学力、学習意欲の向上につながる学習評価の工夫をしていく。	B ⇒	教職員としての実践的指導力の向上	・生徒の学習状況を把握し、「目標と指導と評価の一体化」をめざした授業開発を進める。 ・生徒の学力と学習意欲の向上につながる学習評価の工夫をする。	・評価の基本的な考え方や方法を教員間で共有する。 ・評価の妥当性や信頼性を高められるよう、評価の方針について生徒と保護者にあらかじめ説明をする。 ・授業の最初に「めあて」を提示し、見通しを持たせるとともに、授業の最後には振り返る活動を取り入れるなど、生徒が自らの学習状況を把握できるようにする。 ・学習評価に関する研修を数回実施する。		

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1～5の5段階評価)の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず